

第3学年 国語科学習指導案

日時 平成20年10月9日 公開授業 I

場所

生徒 3年

授業者 教諭

1 題材名 君待つと一万葉・古今・新古今一

2 題材について

本題材「君待つと」は、日本三大和歌集である「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」のなかから計11首の短歌が取り上げられている。五音・七音を基調とした短い和歌の中には、その時々の人々の思いや祈りなどが豊かに表されており、そこから時代を超越する人間の心の有り様を感じることができる。どのように時代が変わろうとも普遍的な人間の真実や日本人に脈々と流れる意識や感性はそれほど変わってはいない。古典の学習はそれに気づくことであり、延いてはそれを大切なことと思い、次の世代に継承しようとする気持ちを心に芽生えさせることをねらいとしている。また和歌の世界に浸り、昔の人の思いを想像しながら読み味わい、我が国の文化や伝統、そして「言葉のもつ力」について関心を深めることをねらいとしていると考えられる。

3 生徒について

本学級は落ち着いた雰囲気の中でじっくりと学習に取り組む生徒が多い。

古典の学習に関しては、生徒たちは一年次には「いろは歌」「竹取物語」「故事成語」を、二年次には「枕草子」「平家物語」「徒然草」「漢詩」と古文・漢文の基礎を学んできた。これまでの古文の学習では、音読に力を入れてきたため、古文を音読する力は育ってきている。しかし、古文に描かれた情景や場面を読み取る力が十分に育ってきていないため、古典の現代語訳をしてもイメージ化できないように感じている。それは古典の基礎的な知識不足のみならず、日常生活において単語や短縮した言葉でのやりとりが多いことによる語彙不足が背景にあるのではないかと考えられる。そのため、この題材は古典であることと和歌であることから、その世界をイメージするのは生徒にとって相当困難であると予想される。

4 指導について

本題材は4時間扱いとする。生徒の実態から和歌の世界をイメージするのが困難であると予想されるため、文章に表現されている言葉にこだわって分析的に読み、さらに古文の文章を現代の言葉に書き起こしながら学習を展開していきたい。

1時間目は和歌を音読することと、額田王の歌を現代語訳することを中心に据える。和歌の内容を読み取らせ味わわせるには、まずは読みに慣れることが大切であると考え。そこで繰り返し音読練習をし、歴史的仮名遣いや独特のリズムに慣れさせていきたい。またイメージ化させるために、一つ一つの語句をきちんと把握させていきたい。

2、3時間目には前時の内容を受けて、教科書中の他の作品を読み取り、鑑賞文の作成とその発表・検討する場面を作る。これはキャリア教育の8能力の「コミュニケーション能力」「自他の理解能力」の育成を意識した手だてとしても有効であると考え。そして、学び合いの後に、最終的な自分の考えを持たせる一人学びの場として、作者への手紙を書く学習を行う。古典の学習とは、古人の伝えたい思いや生き方を読み取り、読みとった感動や生き方を自分の生き方に戻す体験であると考えられる。その手だてとして、鑑賞文や作者への手紙を書くことで国語学習の必然性を意識させたい。

4時間目には、これまで読みとった作品の比較をとおして、三つの歌集の時代背景や特色をまとめさせていく。

5 題材の目標

〈関心・意欲・態度〉

和歌の世界に親しみ、時代背景を想像しながら昔の人のものの感じ方や考え方を捉えようとする。

〈読むこと〉

短い言葉の中に凝縮された心情を、言葉一つ一つに注意して読み取り、自分の意見をもつことができる。

〈言語事項〉

一つ一つの語句が担う効果を考えながら、自分の表現を磨くことができる。

6 題材指導計画（4時間）及び評価計画

時数	学習内容	評価規準
1	○額田王の歌を読み、注釈を参考に現代語訳をする。 ○現代語訳をもとに鑑賞文を書き、発表する。	〈関〉和歌に親しみ、進んで声に出して音読しようとしている。 〈読〉額田王の思いを読み取り、和歌に表された意味をまとめている。 〈言〉歴史的仮名遣いを正しく発音して音読することができる。
2 / 2 (本時)	○三大和歌集から和歌を選び、注釈を参考に現代語訳をする。 ○現代語訳をもとに鑑賞文を書き、発表する。 ○古人のものの感じ方生き方を捉える。	〈関〉和歌の世界に関心を持ち、表現に寄り添いながら和歌を読もうとしている。 〈読〉和歌の言葉や表現に注目しながら、歌に読み込まれた情景や心情を文章に書き表すことができる。 〈言〉和歌の内容を読みとるため、言葉1つ1つの持つ意味について調べている。
1	○作品の比較をとおして、三つの歌集の時代背景や特色をまとめ、伝統文化としての和歌について関心を深める。 ○古典和歌の表現技巧について知識を得る。	〈関〉和歌の世界に関心を持ち、表現に寄り添いながら和歌を読もうとしている。 〈言〉古文独特の語や用法を理解することが出来る。

7 本時の指導

(1) 評価規準（目標）

〈意欲・関心・態度〉

和歌の世界に関心を持ち、表現に寄り添いながら和歌を読もうとしている。

〈読むこと〉

和歌の言葉や表現に注目しながら、歌に読み込まれた情景や心情を文章に書き表すことができる。

〈言語事項〉

和歌の内容を読みとるため、言葉一つ一つの持つ意味について調べている。

(2) 展開

段階	学習内容	学習の活動	○指導上の留意点 ・資料 ☆評価の観点
導入 10分	1 前時の確認	1 前時の内容を想起する。	○古人の考えや生き方に触れる学習であることを理解させる。
	2 課題の提示と把握	2 学習課題を把握する。	
学習課題：情景をとらえ、作者へ自分の思いを伝えよう。			
展開 35分	3 学習の見通しを持つ	3 学習の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 (学習シート) ☆〈関心・意欲・態度〉和歌の世界に関心を持ち、表現に寄り添いながら和歌を読もうとしている。(観察・学習シート) ☆〈言語事項〉和歌の内容を読みとるために、言葉1つ1つの持つ意味について調べることができる。(観察・学習シート) 【手だて①—A：コミュニケーション能力】言葉による伝え合い・通じ合いを図り、豊かな人間関係をつくろうとする。 ・資料2・3配布 (学習シート) ☆〈読むこと〉和歌の言葉や表現に注目しながら、歌に読み込まれた情景や心情を文章に書き表すことができる。(観察・学習シート) 【手だて①—A：自他の理解能力】言葉を通して自分や他のよさや個性に気づき、場面や状況に応じて多様な考えを理解し、自分を深める。
	4 鑑賞文の発表	4 ・鑑賞文を発表する。 (山上憶良・防人歌について) ・親から子への愛情を詠んだ歌であることを理解する。	
	5 課題の追求	5 作者への手紙を書く	
	6 課題解決	6 何人かの生徒発表を聞くことで、多様な考えを理解する。	
まとめ 5分	7 本時のまとめ	7 本時の学習課題の必然性について実感する。	<p>○課題の必然性について実感させる。</p> <p>①作者が伝えたかった思いを読み取り自分の考えをもつ。</p> <p>②多様な考え方を受け入れ、学ぶ。 →自分の生き方へ戻し、生かすこと。</p>
	8 自己評価カードへの記入	8 振り返りカードに記入をする。	

(3) 評価規準と具体的評価規準

観点	具体的評価規準		十分満足できると判断する具体的な状況【A】	おおむね満足できると判断する具体的な状況【B】	努力を要すると判断される生徒への支援
	評価規準(方法)				
関心・意欲・態度	和歌の世界に関心を持ち、表現に寄り添いながら和歌を読もうとしている。 (行動観察)		和歌の世界に関心を持ち、友達の意見から自分の読み方を深めながら積極的に和歌を読もうとしている。	和歌の世界に関心を持ち、表現に寄り添いながら和歌を読もうとしている。	和歌の内容を読み味わえるような観点を示す。 お助けシートを配布する。
読むこと	和歌の言葉や表現に注目しながら、歌に読み込まれた情景や心情を文章に書き表すことができる。 (行動観察) (学習シートの記述内容)		和歌の言葉や表現に注目し歌に読み込まれた情景や心情を的確な言葉で文章に書き表すことができるとともに、古人の生き方について読みとることができる。	和歌の言葉や表現に注目しながら、歌に読み込まれた情景や心情を文章に書き表すことができる。	和歌の内容を読み味わえるような観点を示す。 (どんなときのどんな心の歌なのか) 古語辞典や国語辞典を使い、古語を現代語に置き換えたり言葉を補ったりさせる。
言語事項	和歌の内容を読みとるため、言葉1つ1つの持つ意味について調べている。 (行動観察) (学習シートの記述内容)		和歌の内容を読みとるため、言葉1つ1つの持つ意味について根拠を明らかにしながら調べている。	和歌の内容を読みとるため、言葉1つ1つの持つ意味について調べている。	和歌の内容を読み味わえるような観点を示す。 お助けシートを配布する。